

ビバハウス便り No59 冬も働ける仕事が増えてきた！

ビバハウス 運営委員長 安達俊子

いよいよ本格的な冬を迎える心の準備をしなければならない季節が迫ってきた。全道の上空が寒気に包まれた10月半ばから、本州ぜいが大部分の若者たちは、「寒い、寒い」の大合唱を始めた。実際に、のどの痛み、発熱を訴える若者も複数出た。今年は灯油高騰の折、できる限り節約と思っていたが、やむを得ず、1階2階の共通スペースのストーブを焚かざるを得なかった。もうこうしてしまえば、それぞれの個室のストーブを制限することは出来なくなった。窓越しに雪虫の舞う姿を目で追いながら、冬はもう真近であることを実感させられた。

私たちには、今年の冬には特別の思い入れがある。どうしても今年の冬こそ若者たちの働ける職場を作りたいということだ。(ビバハウス便り No57 参照) そのために夏のうちから、いろいろと出来る限りの努力を積み重ねてきた。その成果が、ひとつひとつ今実りだしたのだ。まず初めは、市民生協余市店の隣のコミュニティ・レストラン、テラスさんを会場に開かれた「余市よいことマーケット」でお知り合いになった皆さんから、ビバハウスの取り組みに対する暖かいご理解とご支援のお気持ちを頂いた事だ。

札幌で古布を活用して素敵な手芸品をおつくりになっているMさんからは、「もしビバの若者達が、関心があるならば、農作業のない冬の間、札幌から出向いてでも講習会を開いてあげたい。」とのありがたいお便りを頂いた。さらに小樽市の忍路でケーキ店を経営しているT氏は、「11月半ばごろから年末まで、2、3人のアルバイトをお願いしたい。」と言って下さった。早速先日、スタッフと現地視察に行ってきた若者たちは、喜びいっぱいの笑顔で帰ってきた。

実はこのマーケットでのおかげで仕事を頂いたのはこれだけではない。若者自立塾ビバ(余市町入舟町)のすぐ近くで「宇宙の湯」という不思議な名前の温泉を経営している茅根さん(この命名の由来はいずれ明らかにしたい)がマーケットに来て下さったのが、仕事のきっかけになった。茅根さんは、温泉経営のほかにお持ちのご自分の畑で栽培しているニンニクとイチゴのアルバイトの仕事を提供して下さったのだ。提携しているサンユー農産の仕事もおいおいに少なくなっていく季節だったので、この時期の仕事は本当にありがたかった。

こうなれば、ビバ独自の取り組みもどうしても強化しないわけには行かない。若者自立塾ビバの厨房を活用し、就労訓練を兼ねて、お年寄りの皆さんへの給食・宅配サービス実現の計画を緻密に立て、実施したい。青森出身の女性の調理師免許所有者のほかに、このほど夫が福島県郡山市に出張した機会に、男性の免許取得者を口説いて、このほどビバに来て頂いた。早速ビバの畑で今年から栽培しているサツマイモ・紅あずまのお年より向きの調理方法を研究してもらっている。

時は熟しつつある。若者たちの仕事への意欲も、それを取り囲む善意あふれる皆さんのお気持ちも、今年の冬の寒さを必ず打ち破るものに違いない！